

後悔しない面接の受け方Ⅰ（保護者編）

ペーパーテストによって学力を測るといつても、まだ5歳～6歳児にとって学習の習熟度での選考には限界があります。現在すべての国立・私立小学校では個別審査や行動観察なども加味して選考するのが一般的です。その中でもとりわけ面接が大きな比重を占めます。「基本的な生活習慣」、「判断力」、「社会性」また、ご両親の考え方や話し方から「これまでの子育てがその学校にふさわしいか」などを面接でチェックします。

ポイントは以下の3つです。

- ① 志望理由
- ② 家庭の教育方針
- ③ 子供の性格

もっと噛み砕くと、子供の性格については親が子供の長所、短所をどれくらい把握しているか、また、これまでの家庭教育がその学校の教育方針に一致しているか否かということです。

① 志望理由

- 学校に憧れるだけでは志願理由になりません。
- 「伝統」・「設備の整備」・「熱心な先生」では抽象的です。
- あくまで家庭の教育方針＝学校の指導方針の図式が基本です。
- 具定例が効果的…卒業生や在校生のエピソードなどは最適です。

② 家庭の教育方針

大半の私立小学校では伝統を誇る独自の教育方針、校風があり、これらが家庭の教育方針にどのように関連性があるかが重要です。一般的にキーワードとされるのは以下のもので

す。
[豊かな人間性]・[主体性]・[創造力]・[公共心]・[奉仕の精神]・[国際的視野]など。ただし、これらの言葉をそのまま使うのではなく、生活に密着した平易なことばにアレンジして話すよう心がけましょう。

③ 子どもの性格について

とくに、子供に接する機会が少ない父親にとっては準備が必要です。
一般的に長所として多いのは以下のようなものです。
「明るくて活発です。」、「自主性があります。」、「優しいです。」等ですが、ただそれだけ

では表現不足です。具体例やエピソードをはじめて話すのがコツです。例えば「明るく活発」では友人との遊びを通してのエピソードを話すのもよいでしょう。また、優しさを表現するには弟妹への思いやり、祖父母などへのいたわり、その他幼稚園の先生からの評価などが挙げられます。

一方、短所で気をつけなければならないことは、「短期」、「気が弱い」、「集中力に欠ける」、「飽きっぽい」などのことばは禁句です。ほかの言葉に言い換えるのも一案です。

たとえば、短期＝積極的なあまり気が急く。気が弱い＝慎重で思慮深い。飽きっぽい＝好奇心が旺盛など工夫も必要です。

いずれにせよ短所の場合は長所のように具体例を避け、穏やかにゆったり話すよう心がけてください。

④宗教教育について

ついでに宗教教育について書き添えておきます。信者になった方が有利とかの噂があるようですが、ごく特殊な場合を除けば宗教と入試とは無関係といつていいでしょう。だからといって無関心ではいけません。どの学校も宗教を道徳教育の一環としています。「人に迷惑かけない。」、「弱いものをいたわる。」などはどの宗派でも主眼に置いています。

たとえばミッション系では「神の前に真実に生きる＝嘘をつかない」、「豊かな人間性＝おもいやり」、「正しい価値観＝正義」、「社会への貢献と奉仕」、「世界的な視野」など、つまり心身とも健康で心の優しい子供を求めています。

しかしながら面接形態や評価は受験校により異なります。受験される学校の教育方針や創立者の精神をよく把握しなければなりません。岸和田校では毎年入試直前期に会員の保護者も対象とする**志望校別模擬面接**を行っています。

次回《後悔しない面接の受け方Ⅱ》では私ども若桐会岸和田校在籍の方が多く受験するす大阪南地区から和歌山にかけての帝塚山学院、賢明学院、はつしば学園、智辯和歌山の各小学校の面接形態と留意点をご案内する予定です。

問合わせ

若桐会 ■ 岸和田校 072(437)8641(代)